

令和5年度第3回大槌町総合教育会議 議事録

1 日時

令和6年2月8日(木)午後2時～午後4時

2 場所

大槌町保健センター すこやかテラス

3 出席者

平野 公三 町長

松橋 文明 教育長

大萱生 都 教育委員

谷藤 怜美 教育委員

東梅 広美 教育委員

芳賀 新 教育委員

社会福祉法人新生会みちのく療育園副施設長 川村 みや子様(有識者)

NPO 法人カタリバオンライン事業部長 瀬川 知孝様(有識者)

東京大学医学部付属病院心の発達診療部 医師 佐藤 駿一様(有識者)

菊池 学 副町長(オブザーバー)

[事務局]

藤原総務課長、小國健康福祉課長、岩間主幹(総務課)、関谷総務班長

学務課:吉田課長、平野大槌型教育推進班長、佐藤主任指導主事、小原指導主事、

南スクールソーシャルワーカー、大森相談員

【議事詳細】

1 開会(藤原総務課長)

2 挨拶(平野町長)

※挨拶内容は省略

3 協議

(1)「けやき共育」推進状況

①第2回の提言から

②今年度の「けやき共育」取組状況

③児童・生徒の状況

④3月までの推進計画(来年度構想含む)

≪質疑応答≫

①第2回の提言からについて

②今年度の「けやき共育」取組状況について

【東梅委員】

「みんなの学校」についての感想ですが、上映と講演会を開催していただき、良かったと思っています。

学校と地域が連携し、同じ方向を向いて取り組んでいることが印象に残っています。

今、大槌町は大槌町にしかできない教育に取り組み始めております。沢山の方と交流し、情報を共有しながらともに取り組んでいきたいと思っております。

【谷藤委員】

大槌町は支援が必要な子に対し、手厚く、丁寧に取り組んでいるという印象があります。その一方で、対象になる子や保護者以外は取組について知らない方が多いというのが現状です。多くの保護者、住民が取り組みを知ることで、支援が必要か悩んでいる子やその保護者により早く情報を届けられる体制があればいいと考えました。

【町長】

この件に関して事務局から。

【事務局】

周知についてはとても大事だと私どもも思っております。

今年度中にリーフレットを作成し、来年度4月をめどに配布できればと思っています。

各学校にも相談窓口について再度周知し、新年度の体制をしっかりとしていきたいと思っています。

【町長】

そのほか、今年度の取り組みについて何かありませんか

【大萱生委員】

地域の方々の中には、教育や子どもに関心を示し協力してくれる方が増えています。子どもたちは人とかかわることで成長に繋がっていくと思いますので、色々な方々と一緒に取り組んで行ければよいと思います。

0歳から18歳までの中で障害を持った子の保護者の方の悩みも聞かれます。ぜひ幼稚園等でも支援が受けられる体制となるよう健康福祉課とも連携を取りながら進めていただきたいと思います。

【事務局】

子どもたちにとって人のシャワーってすごく大事ですので、地域の方々にふるさと科やそれ以外の場でもサポーターになっていただければと思っています。

【小國健康福祉課長】

子の発達段階から社会福祉士、保健師等が保育施設や各学校と連携を図り、取り組んでおります。来年度は子ども家庭センターを設置し、子育て、母子保健、児童の分野を一体的にサポートできる支援体制を強化していきます。

③児童・生徒の状況について

【芳賀委員】

前回は話しましたが、やはり気になるのは相談相手がないという回答があること。不登校ではない子たちが相談相手がないと回答している。いないことが悪いというわけではないが、今後リスクになる要因とも考えられる。子だけでなく保護者の相談場所(サロンの開催)についても今後も継続して欲しいと思います。

色々な家庭事業を抱えた子供・保護者が多いと感じています。就学前からの支援が継続できるように連携が必要。また、子どもや保護者を支援する先生方へのサポートが必要だと感じています。コミュニティスクール、地域の先生として、地域全体でサポートしていけたらと思っています。来年度はそういう事業もあつたらいいなと思いました。

【事務局】

不登校児童については個票があり指導状況を見ることが出来るようになっていきます。子どもの中には心を開くことが苦手な子もおりますが、大人と繋がっている子がほとんどで、だいぶ信頼関係も構築できてきています。保護者へのサポートについては健康福祉課と協力しながら取り組んでいきます。

先生方のサポートについても一人で抱え込まないようチームで対応していきたいと思っています。

【町長】

そのほか何かございませんか。それでは、オブザーバーの副町長から

【副町長】

様々な家庭環境があり、勉強する方法の選択肢、は働き方の選択肢も広がっています。けやき体験などの多様な機械で学びや仕事の経験が出来るよう事業を進めてもらえればと思いました。

【谷藤委員】

来年度の話ですが、先進地視察調査についてより多くの現場の先生方に見ていただきたいので、予算の確保をお願いしたいです。

【町長】

先生方にも実際に見て感じていただくことが必要だと思っております。

【教育長】

先日、都内の学校を見学してきましたが、低学年のクラスに3人ぐらい地域のかたがサポートに入っていました。英語の授業は地域の方が専門的に入っており、8年生は株の授業をしており、10年先を進んでいるように感じました。

先ほど、芳賀委員からお話がありました先生方の支援についても取り組んでいきたいと思っております。

全ての問題を学校だけで対応できるわけではないので、学校が得意なこと、家庭が得意なこと、地域が得意なこと、役割分担をしながらその子に合った育ち方を連携、支援していきたいと思えます。

(2) 指導・助言

【町長】

それでは、有識者の3人の先生方からお願いいたします。

【川村先生】

発達障害は医療モデルではなく生活モデルではないかと考えています。子どもたちには、医療の場ではなく生活の場で育てほしい。学校の先生はとて素晴らしい立ち位置にいらっしや、子どもたちの人生を左右する場所にいらっしやと思うんです。その先生方が疲れて、次々と辞められている。先生を支えるチームが必要なんです。先生が弱音を吐ける場所が必要かなと思います。

子どもたちの中には先生を前にして言えないことがあります。本音を言うとわがママを言っていると思われるから我慢している。別な大人には言えることも言えないことがあるんです。

複数の支援者が関わり、役割分担し、情報を共有するケース会議をして先生もサポートしていくのがいいのでは。

大空学校のように子どものすべてのニーズに応えるには人もお金もかかることだと思いま

すが、学校に行きたくないという気持ちにならないような何らかの手立てを打っていただければ嬉しいことだなと思いました。

【瀬川先生】

最初にちょっと簡単な質問をひとつさせていたきたいんですけど、来年度計画されている多様な学びの選択肢、今日いくつかご紹介いただきましたが、こういった場所を使った場合、こういった場所で学習した場合それは、出席扱いになるようなことまで検討されているんでしょうか？

【事務局】

一応、それ前提で考えてはおります。これから町内の教職員、先生方とお話をして理解をいただいで、4月から進めていく予定です。

【瀬川先生】

認めてあげることが子ども達にとっても自信につながることになるかなと感じていますので、ぜひそういった形を目指していただけたらなと思います。

教室の中の取り組み、予防的な取り組みと教室の外の取り組み事後的な取り組みが両方ともあのごく充実した内容で検討されているっていうところがまず素晴らしいなと思いました。

まずは予防的な取り組みなんですけども、不登校になる前といいますか、すべての子ども達対象にした取り組みで学習に関するところ、たとえば、授業を単元別自由進度学習を導入準備していかれるとか、ICT活用をしていかれるとかいろいろと具体的な案があったと思います。

学校なら教室の中での取り組みを考えていく時に、やはり学習指導とともに生活指導、生徒指導やはり両輪だろうなと考えております。

学習指導に関しては、具体的でわかりやすいと思いました。学習のスタイルを変えていく授業、ツールを活用していくというのは、非常に具体的でどんなことをやるのか、それが実際どう変わったのかが傍から見てもわかるし、取り組みの実施状況も非常にわかりやすい。一方で生活指導、生徒指導ってなにがどう変わったのか見えにくいことでもあると思うんです。今回このぶんに関する取り組みはおそらく、特別ニーズ教育の視点での子ども達の支援、特別ニーズ教育に関する検証を行っていくというのがひとつの生徒指導、生活指導に関わる取り組みなのかなと捉えております。

不登校の子ども達の支援については、よく支援計画作ったけど、個人情報の問題もあるんですけど、あまり共有されずにうまく利用されないっていうケースが散見されるのを見てきたので、せっかくここで支援計画を作るのであればぜひ先生方だったり、SC、SSWの皆さんだったり、いずれその子の支援に関係する人達に、この支援計画が正しく共有されて、皆さんと見せ合わせをしながら支援が進んでいくようなことをぜひチャレンジいただけたら良いのではないのかなと思います。

【佐藤先生】

このけやき相談チームが今6年生7年生という全員面談しましたが、川村先生も先ほどおっしゃっていましたが、最近、低学年の不登校が増えてきているので、面談を入れていくのが大変なんだろうと感じています。今後、相談チームで、何年生に介入していくか対象を絞ることが力量をためられるのかなと思っています。

チーム全体で何か同じものを見ているのはいいなと感じました。というのは、ケース対応とか指導計画の共有とかあともう1個は、今回は大空小学校の映画見て、講演を聞いて、みんなで聞いたことが良かったと思いました。今まで、みんなで一緒に学び合ったり、みんなで一緒に共通の目標をお互い持つみたいなのという勉強会をしていなかったもので、今回の研修でチームとして一丸になれるんじゃないかと感じたことが良かったです。

【教育長】

たくさんのご意見ご感想をいただきました。これをまた来年に活かしながら、取り組んでいきたいと思います。

全国的にも、岩手県でも不登校は増えています。低学年からの取り組みを深めていく必要があると思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

その他になりますが、なにかありますか。

ないようなので、議事を終了します。